

様式 2

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：情報科学

部会長名：塚本康夫

作成者名：塚本康夫，熊本悦子

概要（2000 字）

1. 教育用端末負荷対策について

情報基盤センターから、教育用端末を用いた情報基礎の講義と履修登録が重なったときに、端末の負荷が問題となるとの調査結果が出されており、情報基盤センターからの協力要請に従い、平成 22 年度 4 月の履修登録時における情報基礎実施の際には、一斉にログインやログアウト、Web 教材へのアクセスを行わない等の指導を行った。今年度は端末の負荷について特に問題は発生していない。

2. 情報基礎の実施について

2-1) 平成 22 年度の実施に向けて主な担当者間で事前の打ち合わせを行った。（平成 21 年 2 月 9 日）情報基礎の第 1 回目にアカウント配布，5 回目の全時間を図書館に担当して頂くこと等，前年度とほぼ同様の内容で実施することになった。

2-2) 平成 22 年度に向けて図書館との打ち合わせを行い，以下の確認を行った（平成 21 年 2 月 26 日）

2-3) 平成 22 年度の総括および平成 23 年度の実施に向けて，図書館との意見交換を行った。（平成 23 年 2 月 21 日）

3. 教養原論担当者について

平成 22 年度より教養原論「情報の世界」4 コマを全て工学部教員が担当することになり，非常勤枠を返上することができた。

様式 2（続き）

項目・観点ごとの記述

基準 5 教育内容及び方法

5-1-②： 授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

（観点に係る状況）

情報基礎は全学の学部新生を対象とし，情報機器の操作にとどまらず，セキュリティや情報倫理までを網羅した必修の情報リテラシー教育である。再履修クラス 1 クラスを含め全 24 クラス，開講期間は半期の半分（6 単元）であり，教育用端末を用いて行う。授業は，オリジナルの Web テキストと独自に開発した簡易 e-Learning システムを用いて，全クラス同じ内容で行われる。

情報科学は学部からの要請に基づき開講されており，常に最新の情報を講義に反映するように努めている。また，教養原論「情報の世界」については，専門領域外の学生に広く知識を提供することを目標に講義内容を構築している。

根拠資料

情報基礎：Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2010/>)

情報科学，教養原論：シラバス，Web テキスト，パワーポイント資料，授業中に配布した資料

5-1-③： 授業の内容が，全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

(観点に係る状況)

情報基礎に関しては，21年度までの反省点を踏まえ，講義内容の見直しを行い，Web テキストの内容を更新した。情報科学については，日々進展している領域であるため，複数の参考書や最新のトピックを取り上げ，SPI 試験等にも対応できる講義を行った。

根拠資料

情報基礎：Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2010/>)

情報科学：パワーポイント資料，記入式配付資料

5-1-⑤： 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

情報基礎に関しては Web テキストを準備することにより，学生が学内外からアクセスし，自学自習を可能とした。また，クラス担当スタッフへのメーリングリストを作成し，電子メールによる質問を可能とした。また，毎回の配付資料は記入式のものとし，受動的な講義にならないようにした。

根拠資料

情報基礎 Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2010/>)

情報科学：パワーポイント資料，記入式配付資料

5-2-①： 教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば，少人数授業，対話・討論型授業，フィールド型授業，多様なメディアを高度に利用した授業，情報機器の活用，TAの活用が考えられる。)

(観点に係る状況)

情報基礎については各クラスの履修者数に応じて，教員 2 名または 3 名およびティーチングアシスタント 2 名または 3 名で授業を担当し，1 人 1 台のコンピュータを割り当てた。授業を実施するに当たっては共通の手順書を準備し，教員が異なってもすべてのクラスで同じ質の授業を実施できるようにした。

情報科学，教養原論に関しては，教室での講義であるため教育用端末を用いた実習は行えなかったが，教員持ち込みのノート PC を用いてスライドやビデオ，Web テキスト等の教材と情報機器を活用した講義を行った。

根拠資料

各クラスの受講者数一覧表，担当者一覧表および座席表

情報基礎：Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2010/>)，授業手順書

情報科学：パワーポイント資料，記入式配付資料

5-2-③： 自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

情報基礎のテキストは全て Web ページ上に置いてあり，随時閲覧できる。また，その中で，それぞれの単元ごとに「ちからだめし」(小テスト)を設けており，随時，繰り返しテストを受ける事ができる。また，ちからだめしの結果は自動採点され，各学生は自分の成績を閲覧できるとともに，担当教員は担当する全ての学生の状況を確認できるため，各学生に対して適切な指導を行うことが出来る。

根拠資料

情報基礎 Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2010/>)

5-3-②： 成績評価基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。
(観点に係る状況)

情報基礎については成績評価基準を全クラスで統一し，出席，課題の採点結果に基づいて公平に採点した。情報科学については，シラバスの通り配付資料の内容を基にした演習問題，レポート課題を複数回実施し，それぞれ授業の後半で解説，回答例を配布した。

根拠資料

情報基礎：課題レポートの解答メール，オンライン小テスト，成績集計システム (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2010/> 教員用ページ) による自動採点

情報科学および教養原論：答案，授業内レポート，出席

基準6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

情報基礎独自のオンラインアンケートを行った結果，Web テキストは授業を理解する上で役に立ったという設問に対し，5段階で平均 4.07 であり，高い評価を受けた。ビデオ教材が授業内容を理解する上で役に立ったという回答も，5段階平均 4.07 と高く，教育の効果が上がっていると考えられる。また，e-Learning システムで個々の出席状況やテストの成績を確認できることが好評であった (5段階で 4.48)。なお，今年度の情報科目のベストティーチャー賞として，情報基礎担当の番原睦則准教授が受賞した。

また，共通教育が実施するアンケートにおいて情報科学および教養原論「情報の世界」の評価については概ね 4.0 を超えており，何れも教育の成果や効果が上がっているものと思われる。

根拠資料

平成22年度授業評価アンケート結果および情報基礎オンラインアンケート結果

基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

情報基礎に関しては，情報基盤センターが提供するメーリングリストサービスを利用して，クラスごとに学生から電子メールで担当教員およびティーチングアシスタントに対して随時，質問が受け付けられるようになっている。また，オフィスアワーに関しては教員の Web ページ，シラバス等に掲載している。

根拠資料

神戸大学統合ユーザ管理システム課金サービス一覧